富岡製糸場世界遺産登録記念・原三溪市民研究会５周年記念

シンポジウム

富岡製糸場と横浜の原三溪

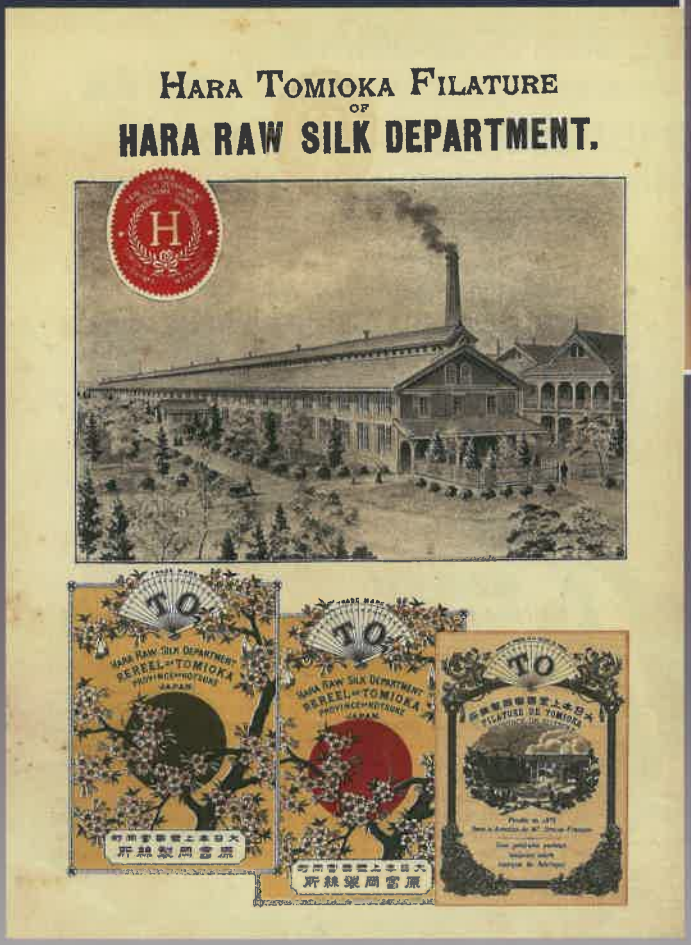
―36年間の経営と継承―

日　時：2014年10月11日（土）
14：00～16：30（開場13：30）

会　場：横浜美術館　レクチャーホール

定　員：200名　入場無料（先着順）
（レクチャーホール入口にて12：30より整理券配布）

原三溪　©三溪園



英文カタログ『大日本帝国の有名生糸生産者とその商標』（1904）より
Collection Christian Polak

主　催：原三溪市民研究会　横浜美術館　三溪園

助　成：公益信託　ヨコハマ中区まちづくり本牧基金

シンポジウム　富岡製糸場世界遺産登録記念・原三溪市民研究会５周年記念

富岡製糸場と横浜の原三溪　―36年間の経営と継承―

開催にあたって

横浜市民になじみ深い本牧の三溪園（さんけいえん）。

この日本で有数な庭園を造営し、100年以上も前、市民に無料開放した原富太郎（1868～1939）は、日本を代表する生糸貿易などを行った実業家です。三溪と号した富太郎が、このたび日本で18件目の世界遺産に登録された「富岡製糸場」を36年の長きにわたり経営したことは、あまり知られていません。

富岡製糸場の世界遺産登録は、三溪が経営した明治末期から昭和戦前期にかけ、地域の養蚕農家、養蚕の教育機関（高山社（たかやましゃ））、蚕種を保存する貯蔵施設（荒船風穴（あらふねふうけつ））と協力しあって、生糸産業の技術革新に取り組み、海外へ良質な生糸を大量に輸出して、世界のファッション界に貢献したことなどが高く評価されたものです。

生糸貿易商の三溪は、なぜ富岡製糸場を手に入れたのか。手腕はどのように発揮されたのか。富岡製糸場は、なぜ世界の製糸業界を牽引するほどの技術革新を達成できたのか？

富岡製糸場の世界遺産登録と原三溪市民研究会発足５周年を記念し、知られざる原三溪の人となりと富岡製糸場とのつながりについて、皆さんとともに考えたいとおもいます。

富岡製絲場工女勉強之圖　左に「原富岡製絲所の需めに應じ明治六年出版の錦繪を再版す（大正十五年渡邊版畫店）」の文あり（根岸五百子氏蔵）

シンポジウム

あいさつ　　原三溪市民研究会

第１部　講演１　世界遺産と原時代の富岡製糸場

富岡製糸場総合研究センター学芸員　岡野　雅枝

講演２　原合名会社の近代経営学

東京外国語大学名誉教授・原三溪市民研究会顧問　内海　孝

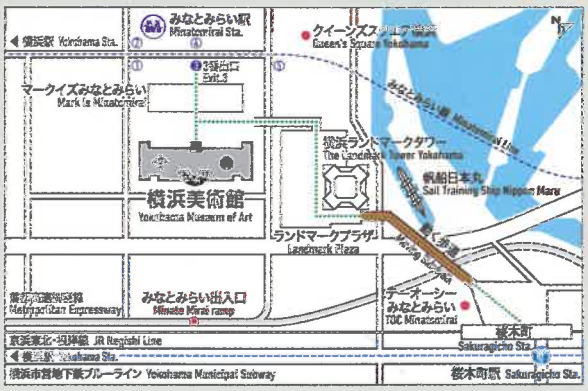
―休憩―

第２部　パネルディスカッション

パネリスト：川幡留司～三溪園　参事
岡野雅枝～富岡製糸場総合研究センター　学芸員
内海　孝～東京外国語大学名誉教授

コーディネーター：原三溪市民研究会

アクセス



横浜美術館　レクチャーホール
〒220-0012　神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1

◆みなとみらい駅下車、3番出口からマークイズみなとみらい〈グランドガレリア〉経由、徒歩3分。または〈マークイズ連絡口〉（10時00分～）徒歩5分。
◆桜木町駅下車、【動く歩道】を利用、徒歩10分。

問合せ先

原三溪市民研究会　http://www.harasankei-kenkyukai.com/form/　TEL:080-8708-5985